

ごふうじゅうら

# レストラン『五風十雨』

『樹を楽しむ 陶器を見るに似たり』と富本が遺した言葉は、自然に対する畏敬の念が込められています。厳選した地元の新鮮野菜と体に優しい調理法にこだわったお料理です。

事前予約制

TEL:0743-56-3855

席数:最大22名



## ご昼食

うぶすなの松花堂「箱」 5,500円(税・サ込)

うぶすなの昼会席「翔」 7,200円(税・サ込)

「彩」 8,800円(税・サ込)

まほろば赤牛陶板会席「四弁花」 11,000円(税・サ込)

お祝い会席「福」 16,500円(税・サ込)

営業時間 平日 11:30~(1部制) 土日祝 11:00~/13:00~(2部制)

## ご夕食

うぶすなの夜会席「春夏秋冬」 10,000円(税・サ込)

「風花雪月」 15,000円(税・サ込)

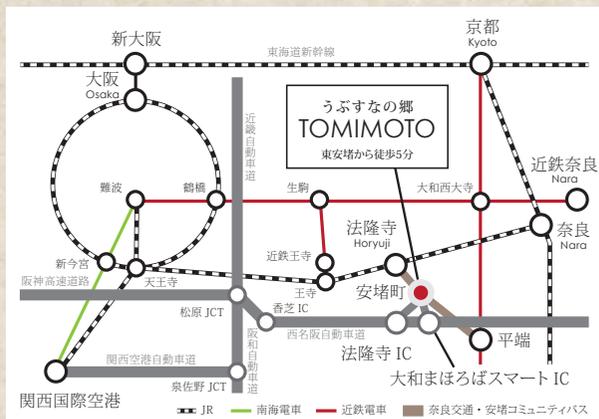
「白雲悠々」 24,200円(税・サ込)

まほろば赤牛鍋コース 15,000円(税・サ込)

営業時間 17:00~

## Access

広域マップ



### ●電車をご利用の方

【大阪から】  
JR大阪駅→JR法隆寺駅

【京都から】  
近鉄京都駅→近鉄平端駅

【奈良から】  
JR奈良駅→JR法隆寺駅

### ●バスをご利用の方

【JR法隆寺駅から】  
JR法隆寺駅から東安堵まで約8分  
バス停から徒歩5分

【近鉄平端駅から】  
近鉄平端駅から東安堵まで約25分  
バス停から徒歩5分

### ●車をご利用の方

【西名阪自動車道】  
法隆寺ICより約6分  
大和まほろばスマートICより約5分

【駐車場】  
無料駐車場(普通車5台)

詳細マップ



TOMIMOTO  
うぶすなの郷

〒639-1061 奈良県生駒郡安堵町東安堵1442番地

<https://and-tomimoto.jp/>

定休日 火曜日/水曜日 ※祝日の場合は営業

ご予約・お問合せ (11時~17時)

TEL 0743-56-3855 FAX 0743-56-3854



TOMIMOTO

うぶすなの郷

樹を楽しむ

陶器を見るに似たり

# Concept

富本憲吉が生まれたこの地は、  
脈々と受け継がれてきた法隆寺のほど近くに  
あります。  
彼は、この地を“うぶすな”と呼び、自分の原点として大切に  
してきました。

この地には、古くから伝わる何かがあります。  
ゆったりとした時間の中で、富本憲吉のストーリーと  
悠久の大和の歴史・自然を五感で感じとり、未来に想い  
耽る。  
それが「うぶすなの郷 TOMIMOTO」です。



## 古民家ホテル

富本が愛した空間でなつかしく、  
ゆったりと流れる時間を愉しむ。



## 自然の恵みのレストラン

都市部で味わうことが出来ない食の魅力。  
奈良の新鮮な食材を  
ふんだんに使ったレストラン。



## 法隆寺、太子道観光拠点

法隆寺を中心に、  
悠久の大和の歴史を感じる観光拠点。



## 絵付け体験

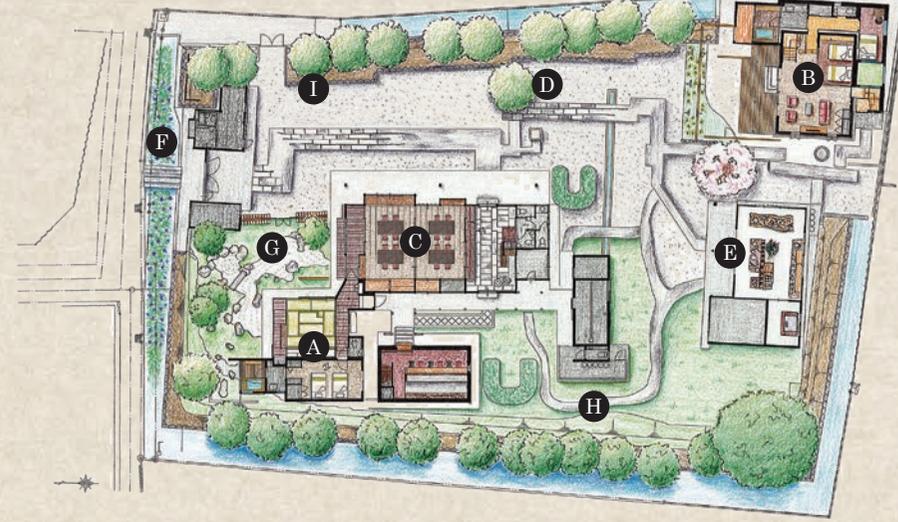
『樹を楽しむ 陶器を見るに似たり』  
四季の移ろいや自然の美しさを見ながら  
陶芸や苔玉づくりなど様々な体験ができる教室。



## 自然の景観と庭

富本憲吉が作品のモチーフの  
ひとつとした「身近な自然」を  
感じることで庭園。

## 館内図



**A** 『日新』(客室) ツイン+和室 (2~4名) 63㎡ 半露天風呂付き

富本憲吉が愛用した書斎をそのままに、植彌加藤造園による日本庭園を眺めながら、ゆったりとした時間をお過ごしいただけます。客室は伝統的な純和室とモダンな洋室を併設しています。さらに、日本庭園が目前に広がる陶板風呂もご用意しております。

「日新」の由来は、富本憲吉の「日新」という書画です。この作品には「日本を新たに」という思いが込められています。これは、富本と同じく安堵町出身の親友で、世界的な医学者である今村荒男と共同で制作されました。二人は同郷でありながら、芸術と医療それぞれの分野で活躍し、多くの功績を残しました。富本憲吉が過ごした和室では、日本の新しい未来について共に語り合ったことでしょう。

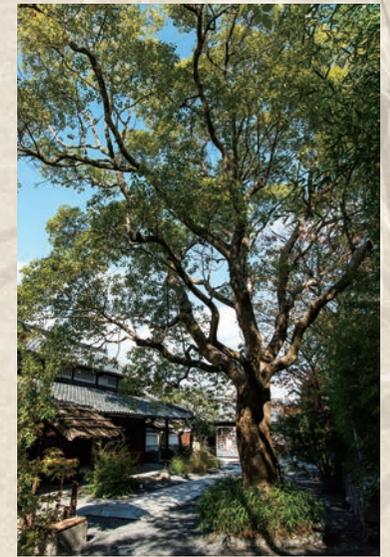


**B** 『竹林月夜』(客室) ツイン+セミダブル+和室 (2~8名) 139㎡ 半露天風呂付き

蔵をリノベーションしたメゾネット式の客室は、ツイン、セミダブル、和室の部屋をご用意しております。また、石灯籠のある坪庭を眺めることのできる石風呂では、静かな時間に身を浸すことができます。

「竹林月夜」の由来は、富本憲吉が留学後に出会ったイギリス人陶芸家バーナード・リーチとの関係にあります。富本は日本で陶芸を学ぶバーナード・リーチに出会い、陶芸作品に取り組み始めました。富本が産土（うぶすな）である安堵町に活動拠点を移してから、バーナード・リーチは彼をしばしば訪ねました。その際、二人の会話をやさしく包んだのは月夜に照らされる美しい竹林の風景でした。富本は自身の作品の中でもその風景を描き、その名前を「竹林月夜」としました。客室から広がる景色は、二人が見たであろう美しい「竹林月夜」をイメージしています。

**D** くすのき テイカカヅラ



**C** 『五風十雨』(レストラン)

席数：最大 22 名  
安堵町の隣町にある法隆寺は富本にとって身近な存在であり、聖徳太子の時代から続くこの寺の由緒ある仏像や宝物をみて育ちました。本建物を改修するにあたり、法隆寺の大野玄妙管長から「五風十雨」の書をいただきました。「五風十雨」とは、五日ごとに風が吹き、十日ごとに雨が降る順調で穏やかな農耕に適した気候を意味しています。私達も豊かな自然の恵みへの感謝を忘れることなく、そのすべてを味に託しております。



**E** 『陶芸棟』 **F** 堀 **G** 日本庭園 **H** イングリッシュガーデン **I** 『樹を楽しむ 陶器を見るに似たり』(石碑)

